



暮らし・家庭



『どうぶつえんはおおさわぎ』
二宮由紀子／文、あべ弘士／絵
文研出版 1300円
幼児から
ある朝、どうぶつえんから「テンテン」がなくなり、ゾウが『ソウ』になってしまいました。ゾウのしゅうがかりさんは『ソウのしゅうがかり』になり、「あー、するい！ えんちょうさんだけ『え

んちょうさん』のまま『どうぶつえん』になった園を、ソウのしゅうがかりさんがあわてて見ると、他にも名前が変化した動物が…。
つい声に出して読みたくなる言葉のユーモアと、絵の迫力が一体となった絵本です。
◇
『なのだのノダちゃんふしぎなコウモリガサ』
如月かずさ／作、はたこうろう／絵
小峰書店 1300円
小学校中学年から
3年生のサキちゃんがノダちゃんと出会ったのは、雨の日の帰り道。自分を「わがはい」と呼ぶ

女の子が、穴のあいた、黒いコウモリガサの下でめそめそしていたのです。サキちゃんはカサの穴をふさいであげようと思いますが…。真っ黒な服を着て十字架を怖がるノダちゃんは、いったい誰？
「…なのだ」と話す天真らんまんノダちゃんと少しお姉さんなサキちゃんのやりとりが楽しい。シリーズ1冊目です。



子どもの本

児童文学評論家 内川 朗子



『岬のマヨイガ』
柏葉幸子／著、さいとうゆきこ／絵
講談社 1500円
小学校高学年から
両親を亡くし親戚の家に行く途中だった萌花。暴力を振るう夫から逃げてきたゆい。震災時に狐崎に居合わせた2人は避難所で不思議なおばあちゃんと出会い「家族」になりました。やがて岬の古い空き家に移り、3人

での暮らしに幸せを感じるようになります。しかし三つ葉稲荷に封印されていた何かが、津波でお社が流された時に逃げ出して…。あの日から続く大きな痛みと、家族とは何かを考えさせるファンタジーです。
◇
『しばしとどめん北斎羽衣』
花形みつる／著
理論社 1500円
中学生から
この方は江戸時代から来た本物の葛飾北斎先生だ—そう言って父親が病院に運び込んだのは、急性心筋梗塞で倒れた身元不明の老人。本気で肉筆

画を描いてもらうつもりで父親の話を、「ボク」は全然信じていません。しかしある事件から中学校に行かずにいるボクは、退院後の偏屈な老人の世話をすることで、その天才的なデッサン技巧を目の当たりにします。
それぞれが心のうちに抱える問いの思いがけない交錯を、軽妙な語り口で鮮やかに描きます。



※値段は税抜き本体価格

消火栓の場所が○で記されている墨田区の町会・自治会マップ



命を守る

スタンドパイプって知っていますか？ 道路の消火栓に差し込んでホースをつなげて放水する消防器具です。東京都では、168ある町会すべてに配備されています。

スタンドパイプで初期消火 東京・墨田区 全町内会に配置

区内には2600基を超える消火栓が配備されています。区と消防署が共同で作った「町会・自治会マップ」を50センチ四方の100枚四方に1個の割合で消火栓が配置されています。長さ20センチのホースが4本で80センチの放水距離は20〜30センチです。初期消火には役立ちます。



スタンドパイプの使い方—東京都墨田区の資料から

状況で、人手があるなら協力して初期消火にのぞむことです。この場合も絶対は無理せずに危険を感じたらすぐ逃げましょう。

台車に一式 使い方は

墨田区役所で聞いたスタンドパイプの使い方は、スタンダードパイプ一式は「T」字形の大きなネジ回しを使って放水弁を左回して開き、水が出るのを確認したら、右回しでいったん水を止め、道路にある消火栓マンホールに注意を向けます。マンホールを少し開き、スタンドパイプを差し込みます。接続部を少し上に引っ張って、しっかりと固定されているか確認します。放水途中では外れる目印を置きます。なければ見張りの人をつけましょう。

暮らしの相談室

電話相談
03-3350-5246 午後2時~4時
12月1日(火)は
障害児教育
障害児教育研究者
小林 綾さん

2日(水) ●法律
弁護士
横山 聡さん

●あらかじめ要点をメモしてお電話を。
●はしめに名前と電話番号、県名を。
●手紙による相談にはお答えし兼ねます。
●プライバシーを考慮し、記事にするさいは一部修正を加えます。

カブの鶏そばあんかけ

料理研究家 西野 幸枝

カブは秋から冬にかけて甘味が増します。煮物等は葉を共に使い、メンジャコ等を炒め煮

材料(2人分)
カブ 2個
鶏ひき肉 80g
赤みそ 35g
だし汁 1カップ
ユズの皮のせん切り 少々
カブの葉 少々

- カブ 茎を3センチ残して切り、皮をむいて2〜4つ割りにする
- カブの葉 2〜3センチに切って色よくゆでる
- 鶏のぼろ 鶏ひき肉をほくほくから火を通す
- カブの煮汁につけて味を含ませる
- あんかけ だし汁 塩小さじ2、みりん 小さじ2、醤油 小さじ2、砂糖 大さじ2、酒 大さじ2、②の煮汁 大さじ2
- 仕上げ 赤みそ 砂糖 大さじ2、酒 大さじ2、②の煮汁 大さじ2

カブを煮たら、ユズを添えたらできあがり!

うた、ひとひら

黛まどか 著

古の自然を称え、春の訪れを告げ、秋の静けさを詠った俳句(一巻)や美しい日本語(二巻)、そして額田王、アボリネー、宮澤賢治など古今東西の様々なスタイルの詩(三巻)を、俳人・黛まどかさんの情熱豊かな筆で綴る。『うた、ひとひら』

新日本出版社
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-6
☎03-3423-8402 FAX 03-3423-8419【営業】
www.shinnihon-net.co.jp
info@shinnihon-net.co.jp ☆送料 200円

心に太陽を くちびるに詩を

Pippo 著

自然、愛、命、人生、あるいは戦争と貧困、差別と憎悪、自由と弾圧—こうした今日のテーマに、詩人たちはいかに向き合ってきたのか。近代日本で生み出されたエネルギー溢れる作品と言葉にふれながら、深遠でふくよかな詩と詩人の世界へと誘う。やわらかく、切っ先鋭い問いかけが胸に沁みる珠玉のエッセイ集。

●定価: 本体 1600円+税 / 小B 6判上製 / 190頁
ISBN978-4-406-05949-7

新進の「近代詩道師」を慕う、詩と詩人の入門書!